学校番号	104

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ（文系）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	数学Ｂ（数研出版）						
副教材等	スタンダード数学Ⅱ+Ｂ スタンダード数学Ｃ　（数研出版） チャート式　解法と演習　数学Ⅱ+Ｂ（数研出版） チャート式　解法と演習　数学Ｃ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は基本的には教科書に沿って進めていきます。先生の説明をただ聞いているのではなく、自ら考え、主体的に学習をしてください。１年生のときとは違い、扱う問題の量が格段に増え、内容もより高度になっていきます。授業の中で「分かった」と思っていても、それを家に帰ってしっかり復習、演習をしていかないと「自分で解ける」ようにはなりません。また、試験前にまとめて復習することは難しいです。授業を受けて分からない事や質問などがあれば、放って置かず必ずその日のうちに解決していくようにしてください。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。また、長期休業中にはたくさんの課題が出されます。まとめてするのではなく、計画的にこなしていくようにしましょう。
・問題を解くときはまず自分で考えてみてください。その際、途中式や考え方も書くようにしましょう。分からないときは答えを見てもかまいません。ただし、そこに書いてある解説をしっかり読んで理解してから自分の力で解いてください。

2　学習の到達目標

（1）数列、統計的な推測、平面上のベクトルについての基礎的な知識を習得するとともに、数学的に処理する技能を身に付ける。
（2）数列、統計的な推測、平面上のベクトルを用いて、事象を数学的に考察・判断する能力を養い、それらを表現できる。
（3）事象の考察に、数列、統計的な推測、平面上のベクトルを主体的に活用する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数列	第１節　等差数列と等比数列 １　数列と一般項 ２　等差数列 ３　等差数列の和 ４　等比数列 ５　等比数列の和 研究　複利計算	a:等差数列と等比数列を，両者を比較しながら理解し，それらの和を求められる。 b:　等差数列、等比数列の和の条件から初項や公比を求めることができる。またその際，式の特徴を活かして適切に変形したり，式の意味を読み取ったり表現したりできる。 c:等差数列、等比数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第２節　いろいろな数列 ６　和の記号Σ ７　階差数列 ８　いろいろな数列の和	a:　和の記号Σの表し方や性質を理解し，活用できる。また，いろいろな数列について，その一般項や和を求めたり，和から一般項を求めたりできる。 b:　和の記号Σの表し方や性質を理解し，活用できる。 c:　いろいろな数列について興味をもち，一般項や和について考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
2学期		第３節　漸化式と数学的帰納法 ９　漸化式 研究　$a_{n+1}=pa_n+q$を満たす数列の階差数列 発展　隣接3項間の漸化式 研究　漸化式の活用 10　数学的帰納法	a:　漸化式から一般項が求められる。 b:　複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられる。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できる。 c:　具体的な事象の考察に,漸化式を積極的に活用しようとする。また、様々な命題の証明に数学的帰納法を活用しようとする態度がある。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

	第2章　統計的な推測	第１節　確率分布 １　確率変数と確率分布 ２　確率変数の期待値と分散 ３　確率変数の和と積 ４　二項分布 ５　正規分布 研究　連続型確率関数の期待値、分散、標準偏差	a：確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることができる。 b：確率変数の分散，標準偏差の意味を理解し，分布の特徴について判断することができる。具体的な事象から確率変数を求め，その期待値について考察することができる。 c：連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第２節　統計的な推測 ６　母集団と標本 ７　標本平均の分布 ８　推定 ９　仮説検定	a：母平均や母標準偏差、標本平均の期待値と標準偏差、母平均に対する信頼区間を求めることができる。 b：母集団と標本，標本調査について理解し，特に標本平均については，それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できる。 c：母平均や母比率の推定，正規分布を用いた仮説検定ができるようにし，それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を養う。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
３学期	第１章　平面上のベクトル	第１節　ベクトルとその演算 １　ベクトル ２　ベクトルの演算 ３　ベクトルの成分 ４　ベクトルの内積 研究　三角形の面積	a：ベクトルの演算，成分，面積を求めることができる。 b：内積の性質を用いて，等式を証明したり，ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 c：ベクトルの内積の計算をする際，1つ1つの計算で用いている性質を意識し，正しく適用できているか確かめようとする姿勢がある。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第２節　ベクトルと平面図形 ６　位置ベクトル ７　ベクトルの図形への応用 ８　図形のベクトルによる表示 研究　点と直線の距離	a：基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできる。 b：位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できる。 c：様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度